

V. むすび

以上、世界における天文学・宇宙研究の動向と、その中で我国の天文学・宇宙研究がどのような方向を追求して行くべきかを全国の天文学・宇宙研究者の要請を集約しつつ論じた。我国の天文学・宇宙研究に従事する研究者は先進諸国のそれと比して質において劣らないが、その層の厚さにおいては米国は勿論、西欧主要国にも水をあけられているといわざるを得ない。また我国の応用諸科学と基礎科学の対比などの問題で常に論じられる様に、天文学領域関連の研究費においては、近年改善されつつあるとはいえ、米国や西欧主要国は勿論、例えば per capita ではオランダにも水をあけられているというのが実感である。研究者側の強い改善努力が基本であるが、同時に国の基礎科学政策レベルでの対応も強く望まれるゆえんである。

本文書で論じられたものは、大型計画関係としては大型光学・赤外線望遠鏡計画を始めとして、スペース関係の Astro-D、ひのとり II 号等の衛星計画、測地関係の VLBI 計画、太陽関係の電波干渉計等であり（勿論これらは常にその時点その時点で見直されて行くべきものだが）、この他に関連技術の先導的開発等のプロジェクトバックアップ体制、中・小諸計画の推進（国内中型望遠鏡、太陽周期望遠鏡等）、理論研究推進、次期宇宙電波計画の萌芽、そしてそれらを推し進め、活かして行く人間組織論としての研究体制の問題であった。本文書は装置計

画、特に大型計画については、その総合的解説としての性格を持っている。既に推進の合意が得られた大型光学・赤外線望遠鏡をその最初のものとして、他の諸計画についても、当該分野の関連研究者の間で具体案がまとめられ、その意義、マンパワー、引受け機関等について天文学研究連絡委員会で検討が行われ、その結果推進の合意の得られたものから逐次詳細が公にされて行くこととなる。一方、我国の天文学・宇宙研究分野の研究体制の問題は、関連機関内、及びそれらの間の合意なしには進まない問題である。これからの我国の天文学・宇宙研究の力強い発展に最も適した体制はどのようなものかということについて関係者の中で広く議論が行なわれ、比較的近い将来、関連各機関内及びそれらの間での合意が形成され、その方向が確立されて行く事が期待される。

本文書は日本学術会議天文学研究連絡委員会で議論されて来た我国の天文学・宇宙研究分野における将来計画について世界におけるこの分野の研究動向の考察と併せて解題を試みたものである。とりまとめは同研究連絡委員会将来計画小委員会のワーキンググループ（海野和三郎、内田 豊、小平桂一、杉本大一郎）が行なった。協力を得た笹尾哲夫、平山 淳、家 正則、森本雅樹、松本敏男を始めとし多くの方々へ感謝したい。本文書が同研究連絡委員会が我国のこの分野で進めるべきであると考えている諸計画に対する大方の御理解を得るための一助となれば幸いである。

お知らせ

第3回アジア流体力学会議の開催について

(The Third Asian Congress of Fluid Mechanics)

主 催: アジア流体力学会議委員会、第3回アジア流体力学会議組織委員会

開催日: 1986年9月1日(月)~5日(金)

会 場: 日本都市センター

東京都千代田区平河町 2-4-1

主な分野: 1. 気体力学, 2. 境界層, 3. 乱流・流れの安定性, 4. 数値流体力学, 5. 水理学・河川工学, 6. 産業における流体力学・水力機械, 7. 空力音響学・空力弾性学, 8. 熱物質輸送・燃焼, 9. 多相流・反応性流体, 10. 生理流体力学, 11. 地球流体力学・宇宙流体力学, 12. プラズマ・電磁流体力学, 13. 環境流体力学, 14. その他

日 程: 予備登録締切: 1985年3月31日

論文 (extended abstract) 提出締切: 1985年9月30日

論文採否の通知: 1985年12月 (予備登録には first circular について用紙を使用し、庶務高木宛郵送して下さい。論文提出に関する詳細は second circular (1985年6月発送) に掲載されます。)

登録料: 20,000円 (論文集の代金を含む)。その他 banquet 8,000円, outing 2,000円を予定しています。

連絡先: 予備登録宛先および circular の請求先は下記へ。

〒183 東京都府中市幸町 3-5-8

東京農工大学一般教育部 高木隆司

TEL 0423-64-3311

(組織委員会庶務担当 高木隆司)